

オーベルジュで北陸活性化

当地に赴任してちょうど1年が経ちましたが、地域の皆さまに支えられて、本当に充実した時を過ごすことができました。心から感謝したいと思います。

今回は、海外からの観光客、いわゆるインバウンド観光客について書きたいと思います。北陸3県を訪れるインバウンド観光客は着実に増えています。当地の宿泊者数に占める比率も、2012年時点で約2%にしか過ぎなかったものが、最近では約8%にまで上昇しています。いわゆる欧米系観光客の伸びが高いことが最近の特徴として挙げられます。

特に私が住んでいる金沢では、欧米系の観光客が目立ちます。私自身も、行きつけの居酒屋で隣り合わせになったり、街中のイベントで話しかけられたりと、触れ合う機会が増えています。彼らに金沢での過ごし方を聞くと、共通しているのは、街歩きを楽しんでいるということです。確かに金沢には、歴史のある街並み、それを包み込む自然、さらには上質な飲食店や工芸品店が集まっていて飽きさせません。

21世紀美術館を鑑賞し、香林坊・片町でショッピングや食事を済ませ、犀川沿いを散歩するといった魅力的なルートが金沢には沢山あります。私自身フランスに7年間住んでいましたが、欧米人はこうした街歩きが大好きです。パリで言えば、オルセー美術館を観て、セーヌ川を渡ってサンジェルマン・デプレでショッピングや食事を楽しみ、リュクサンブール公園でのんびりするといった感じでしょうか。

こうした街歩きと並んで欧米人が好きなのが、都市部から離れた場所にある宿泊施設付きレストラン、いわゆるオーベルジュに泊まり、自然に囲まれた環境で地元の食材を駆使した料理を楽しむことです。オーベルジュが旅館と違うのは、宿泊施設ではなく、レストランが前面に出ていることです。私もフランス南部の丘陵地帯にあるオーベルジュに行ったことがあります。街並みが一望できる小高い丘の上にあるレストランで、地元のワインと南仏の食材を楽しんだことは忘れられない思い出となっています。

北陸には、素晴らしい自然と食材、そして文化があるので、こうしたオーベルジュに適した土地だと思います。金沢では観光客の急増に伴う街の混雑を指摘する声も目立ちますが、オーベルジュが増えれば、インバウンドも含めた観光客を北陸全域に呼び込むことにもつながるはずです。

白山や立山を眺めながら、伝統工芸品に盛り付けられた地元の美味しい食材を、シャンパン、否、微発泡の日本酒で楽しむ——。想像しただけでワクワクしませんか。